

私たちガンバリました



(左から5位の奥山純菜、4位の島袋ひの、優勝の水木春花、3位の永嶋花音、2位の佐藤美優)

水木春花 首位を1度も譲らず初優勝 最終日、2番でトリプルも耐えて逃げ切る

最終日は2位以下に4打差でスタート。初日はただ1人イーブンパーの72をマークし2日目も75で回った。風もあり、難しいグリーンに多くの選手が悩まされる中、水木の初優勝が予想されたが、阿蘇大津GCで最も難易度の高い2番ミドル(385ヤード)に落とし穴が待ち受けていた。

水木は第2打をグリーン左奥に外すと、アプローチ



をショート。そして、8本のパーパットからなんと4パットでトリプルボギー。この時点で2位に2打差に迫られる。「ショックでした。でも、あれで切り替えられました。固まっても仕方ないかな、と」。大たたきで逆に開き直ることができたのだ。余裕のリードがありすぎると優勝の2文字が自然とちらつく場合があるが、競っていれば自分のゴルフに集中できる。3番以降の16ホールを水木は1バーディー、3ボギーで回って頂点に立った。

生まれは大阪府枚方市。小学6年の時、父・八郎さんの仕事の関係で大分県佐伯市に転居し、中学3年時に大分市内へ。ゴルフは八郎さんの影響で小学2年から始めた。ドライバーの平均飛距離は250㍎。昨年からは体幹を鍛えるため大分市内でキックボクシングジムに通い始めたおかげで飛距離が20㍎も伸びた。さらに、九州の強化選手に選ばれ、今年1月には宮崎市での8地区指定強化選手合同体力強化合宿に参加。ここでの砂浜トレーニングや座学でたくましさを身につけた。「本当にきつかったけど、ためになりました」と水木は自分の成長を喜んだ。

日本女子アマには九州女王として臨む。「目標は優勝です」と力強く言い切った水木の背後には雄大な阿蘇の山並みが映えていた。

佐藤美優 3打差の2位

またしてもシルバーコレクターに

最終日、トップから5打差、3位の佐藤は最終組で水木、奥山とラウンド。2番で水木がトリプルボギーをたたいたが、佐藤も最初の4ホールで3オーバーとスコアを崩し、結局、首位に3打差の2位で終了した。「この試合は優勝したいと思っていました。小学の時1度、中学の時に2度、そして今度も2位…」。九州というタイトルのつく大会で計4度の2位。実力はあるだけに、そのうちチャンスが来るはずだ。